

## ■ 道徳教育と道徳の時間の関係①

# 道徳教育の目標と道徳の時間

### 1 道徳の時間を「要」として推進する道徳教育

道徳教育は以上の目標の下、学校の教育活動の全体を通じて行うものである。したがって、時間割上に位置付けられる道徳の時間との重なりや違いをつかんでおく必要がある。その関係については、小学校及び中学校の学習指導要領「第1章 総則」の第1の2において、上記の道徳教育の目標の前段の部分で次のように示されている。

学校における道徳教育は、道徳の時間を<sup>かなめ</sup>要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間はもとより、各教科、外国語活動（小学校のみ）、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童（中学校：生徒）の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。

このように、道徳の時間は、ひと言で言うならば道徳教育の中核的な役割とも言うべき「要」としての位置付けがある。

「要」とは、古来より我が国が伝統的に愛用してきた扇を手にするときに触れる「要」のことである。「学習指導要領解説・道徳編」でも、道徳の時間について「道徳教育の要所を押さえて中心で留めるような役割をもつ」との解説が見られる。扇は「要」に向かって骨が集中し、それらが扇面を作り出すことによって風を生み出すことができる。扇面には様々な教育活動が展開されているが、道徳の時間はそれらの活動の心を育てる部分にかかわって中心的な役割を果たさなくてはならない。

この関係を前出の「心の教育」も含めて集合関係として図示するならば、上図のような描き方が可能である。これからも分かるように、「心の教育＝道徳教育」「道徳教育＝道徳の時間」というような理解をしてはならないのである。広く豊かな心にかかわる教育として「心の教育」があり、その基盤として道徳性を育む「道徳教育」が位置付けられ、その「要」として「道徳の時間」が内面的な資質としての道徳的実践力をはぐくむという関係である。したがって、道徳の時間は道徳教育全体の中で心に直接働き掛ける学習などにその特質と役割を特化させて指導に臨むことが重要になる。

### 図 心の教育、道徳教育と道徳の時間の関係（表現の例）

心の教育……豊かな人間性をはぐくむ

道徳教育……心の教育の基盤として道徳性を育てる

道徳の時間……道徳教育の要として道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育てる

### 2 道徳教育を推進する上で配慮したいこと

道徳教育は学校の教育活動全体の中で推進されるので、様々な視点に配慮していくことが重要になる。学習指導要領「第1章 総則」の第1の2の目標部分に続く後段に示すものを参考にすれば、例えば、次の配慮事項を挙げることができる。

**ア 教師と児童（生徒）及び児童（生徒）の人間関係を深めること**……日常の生徒指導や教育相談、集団活動としての特別活動などがこの指導の場として生かされる。

**イ 家庭や地域社会との連携を図ること**……道徳教育は学校だけで進められるものではなく、むしろ家庭や地域での教育を原点として進めるものである。特に子どもの道徳的実践を促す視点からも、保護者や地域住民との協力を深めることを大切にする。

**ウ 豊かな体験を通して児童（生徒）の内面に根ざした道徳性を育成すること**……学校では、特に集団宿泊活動、職場体験活動、ボランティア活動、自然体験活動などの体験活動を計画的に進めることを通して心豊かな道徳性を育むようにする。

【参考】 文部科学省「小学校学習指導要領解説・道徳編」「中学校学習指導要領解説・道徳編」2008

※ 整理：東京学芸大学「総合的道徳教育プログラム」

■ 道徳教育と道徳の時間の関係②

## 「補充・深化・統合」をどのようにとらえるか？

平成20年改訂の学習指導要領の解説書で、初めて「補充・深化・統合」の意味について明文化された。共通の枠組をもとに、小学校・中学校の学校段階の特質に応じ、それぞれの視点から解説されている。

■ 『小学校学習指導要領解説・道徳編』（p.29）での解説

学校の教育活動全体で行う道徳教育を補充、深化、統合する

「第1章 総則」に示されているとおり、道徳の時間は、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動など学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育の要の時間としての役割を担っている。すなわち、各教育活動において行われる道徳教育を、全体にわたって調和的に補充、深化、統合する時間である。

児童は、学校の諸活動の中で多様な道徳的価値について感じたり考えたりするが、そのすべてについて考える機会があるとは限らない。道徳の時間は、このように学校の諸活動で考える機会を得られにくい道徳的価値などについて補充する役割がある。

また、体験の中では道徳的価値の意味などについて必ずしもじっくりと考え、深めることができているとは限らない。道徳の時間は、このように道徳的価値の意味やそれと自己とのかかわりについて一層考えを深化させる役割を担っている。

更に、多様な道徳的体験をしていたとしても、それぞれがもつ道徳的価値の相互の関連や、自己とのかかわりにおいての全体的なつながりなどについて考えないままに過ごしてしまうことがある。道徳の時間は、それらを統合し、児童に新たな感じ方や考え方を生み出すというような役割もある。

このことを児童の立場から見ると、道徳の時間は、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動などで学習した道徳的諸価値を、全体にわたって人間としての在り方や生き方という視点からとらえなおし、自分のものとして発展させていこうとする時間ということになる。

⇒要としての  
全体的な役割

・得られにくい  
価値  
⇒補充する役割  
・その意味や自己  
とのかかわり  
⇒深化させる役割

・全体的な関連  
・新たな考え方  
⇒統合する役割

⇒道徳的諸価値を  
自分のものとして  
発展させる時間

⇒ 子どもの意識の上での「補充・深化・統合」の視点を重視した解説。

■ 『中学校学習指導要領解説・道徳編』（p.30）での解説

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を補充、深化、統合する

「第1章 総則」に示されているとおり、道徳の時間は、各教科や総合的な学習の時間及び特別活動など学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育の要の時間としての役割を担っている。すなわち、各教育活動において行われる道徳教育を、全体にわたって調和的に補充、深化、統合する時間である。

生徒は、学校の諸活動の中で多様な道徳的価値について感じたり考えたりする。しかしながら、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動等は、それぞれに固有の目標をもっている。それを期待どおりに達成するかどうかという観点から計画的指導を行うわけであるから、それらの指導の中に合わせ含まれる道徳教育が、道徳教育としてはとかく断片的であったり徹底を欠いたりするのは避けられないことでもある。また、単に個々の教科等に注目した場合に断片的で徹底を欠くばかりでなく、これらを全体として展望しても、必ずしもそれだけでは、十分な成果をあげることができないのもやむをえない。

したがって、その断片的な不十分さを補充し、掘り下げを欠いた不十分さを深化して、それらの指導を統合する道徳の時間がどうしても必要になってくる。

このことを生徒の立場から見ると、道徳の時間は、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動などで学習した道徳的諸価値を、全体にわたって人間としての在り方や生き方という視点からとらえなおし、自分のものとして発展させていこうとする時間ということになる。

⇒要としての  
全体的な役割

⇒各教科等での指導

・断片的  
・徹底を欠く  
・十分な成果を  
あげられない  
⇒補充し、深化し、  
統合する時間

⇒道徳的諸価値を  
自分のものとして  
発展させる時間

⇒ 道徳教育の徹底という指導の必要性からの「補充・深化・統合」の解説。